

第27回あみ全国大会 in なみえ

ここ
「今、浪江にいること」

～いそがず あせらず あきらめず～

@ 浪江町地域
スポーツセンター

2024年10月18日(金)～19日(土)

主催：NPO 法人 全国精神障害者地域生活支援協議会

共催：浪江町

よくきてくちやこと なみえさ～

「あみ第 27 回全国大会 in なみえ」
実行委員長 橋本 由利子

福島県浪江町は2011年3月まで 21,000 人余りの人々が生活してた町ですが、東日本大震災と原発事故により 6 年間、誰も住めない町となりました。B 型事業所のコーヒータイムも利用者、職員全員が避難民となり、一時は散り散りとなりましたが、皆様のご支援を受けて二本松市で再開することが出来ました。

避難をして 13 年、避難先での利用者さんも加えて、コーヒータイムは震災前より大所帯となりましたが、やがては浪江町で再開することを目標にしてきました。そして 2022 年 7 月、ついに浪江町で 5 名の利用者と 2 名の職員で再開を果たす事が出来ました。そんなコーヒータイムがある浪江町で「あみ第 27 回全国大会 in なみえ」を開催することになりました。

交通の便も悪いし、宿泊先も限られている浪江町にお越しくくださる方、またオンラインで参加してくださる方にも「今、浪江にいたいこと」を体感していただきたいと思っています。震災後の人々の心の葛藤や、コミュニティの破壊、その後、帰還して生活を始めた人たちの新たな繋がりなど、「今の被災地」を体験してください。準備に準備を重ねて皆様をお待ちしています。

大会概要

2024 namie

大会テーマ：「今、浪江にいたいこと」～いそがず あせらず あきらめず～

開催日時：1 日目 2024 年 10 月 18 日（金）13：40～18：00

2 日目 2024 年 10 月 19 日（土）9：00～12：30

開催場所：浪江町地域スポーツセンター

〒979-1521 福島県双葉郡浪江町権現堂下馬洗田 5-2 TEL：0240-34-3941

開催方法：ハイブリット開催（会場参加・オンライン参加）

申込締切：2024 年 10 月 9 日（水）

（注）一部の分科会、活動交流会、浪江町内フィールドワーク、いこいの村なみえ宿泊は先着順です。
定員に達し次第、締め切らせて頂きますので、希望される方はお早めにお申し込みください。

大会参加費：会場参加	① 会員・賛助会員	5,000 円
	② 一般	7,000 円
	③ 学生・当事者・家族	2,000 円
オンライン参加	④ 会員・賛助会員	3,000 円
	⑤ 一般	4,000 円
	⑥ 学生・当事者・家族	1,000 円

その他費用：活動交流会：5,000 円（10 月 18 日 金曜 18：30～20：45）

浪江町内フィールドワーク：4,000 円（10 月 19 日 土曜 12：30～17：00）

いこいの村なみえ宿泊：7,000 円（10 月 18 日 宿泊のみ：1 泊朝食付き）

アーカイブ配信について：大会申込者には大会終了後、期間限定でアーカイブ配信を行います。
配信内容は分科会を除いたプログラムとなります。
詳細は大会終了後、メールにてお伝えします。

問合せ先

2024 namie

●第 27 回なみえ大会事務局：あつぷる 担当：山下 TEL 090-5717-5613
（対応日時：日曜・祝日を除く 10：00～16：00）

●あみ事務局：東京都杉並区天沼 2-3-9 伊藤ビル 2F
TEL 03-6383-5673 FAX / 03-6383-5674
E-mail：info@ami.or.jp
（対応日時：土曜・日曜・祝日を除く 10：00～15：00）

受付開始 12：50～（会場参加、オンライン参加共に同じ時間です）

開会式 13：40～14：00（20分）

行政報告 14：00～14：40（40分）

報告者：厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
課長補佐 新平 紗恵子 氏

「入院者訪問支援事業」や「医療保護入院の見直し」「地域での相談支援体制の充実」など、R6年4月に改正された精神保健福祉法についてご報告頂きます。

記念講演 14：40～15：40

「悲しむことは生きること」 講演者：蟻塚 亮二 氏

チェルノブイリ原発事故がおきた時、ソ連の放射線医学のトップであった Dr. イリーンは、300μSV/H という高い濃度の放射線を被曝しても人体には安全だとした。その理由は、避難する人間を減らして、避難に伴う住居や医療や生活インフラなどの「社会的コスト」を減らすためでした。

ところで明治の改革的精神科医であった呉秀三は、「我が国の精神病患者は二重の不幸を重ねている。精神病に罹患した不幸と、この国に生まれた不幸とである」と述べました。呉が指摘する「この国に生まれた不幸」とは、精神障害をもつ人の生活に関わる「社会的コスト」を減らす政治への批判でした。

その点で、必ずしも十分とはいえない制度の下で精神障害をもつ人たちの支援に努力されておられる皆様に深く敬意を表します。古代蝦夷の時代から、東北は、貧しくとも強きものに抗って生きてきました。障害を持つ人を支援するために闘う皆様を、私たち東北人はこぞって歓迎いたします。

（蟻塚 亮二）

蟻塚 亮二 氏 プロフィール

弘前大医学部卒。青森県弘前市内の病院長などを経て、2004年から沖縄の病院に勤務。

2013年から福島県相馬市のメンタルクリニックなごみ医院長。

著書に「沖縄戦と心の傷 ト라우マ診療の現場から」（沖縄タイムズ出版文化賞）「うつ病を体験した精神科医の処方箋」

「悲しむことは生きること：原発事故と PTSD」など



休憩 15：40～15：50（10分）

分科会 15：50～18：00（130分）

分科会については4～5ページをご覧ください

18：00 大会 1 日目終了

1日目が終わったら、、、
ぜひ、交流会へ！

738だぞ!
金見集合

活動
交流
会

日 時：2024年10月18日(金) 18：30～20：45（135分）

会 場：「いこいの村なみえ」

参加費：一人 5,000 円（当日、現地でお支払いください）

浪江での夜を参加者の皆さんと分かち合います。大会プログラムとは一味違った内容で参加者の皆さんと横のつながりを作るあみ恒例の交流会です。浪江の話はもちろんのこと、全国の皆さんとのゆるくて楽しいネットワークの時間です！

※ 会場参加の方のみが対象となります（オンラインでの参加はできません）

※ 1 日目大会終了後、大会会場から交流会会場への送迎、交流会終了後、浪江駅までの送迎も行います（送迎費用無料）

※ 交流会会場は宿泊もできます。詳しくは7ページ「宿泊について」をご覧ください

受付開始 09：15～（会場参加、オンライン参加共に同じ時間です）

特別講演 09：30～10：15（45分）

「共事者の力 ～未来を創る新たなアプローチ～」

講演者：小松 理虔 氏

2011年の東日本大震災と福島第一原発事故から、福島は多くの課題と向き合いながら再生の道を歩んできました。

この特別講演では、地域活動家として多岐にわたる活動を展開している小松理虔さんが、震災後の福島の現状と地域再生の取り組みについて語ります。小松さんは、自身の経験を通じて「共事者」という新しいアプローチを提唱しています。

「共事者」とは、地域の問題に対して共に取り組む人々のことです。

講演では、この「共事者」の力がどのように地域創造に貢献するのか、具体的な事例を交えながら紹介します。また、震災から得た教訓を基に、今後の地域再生に必要な視点やアプローチについても考察します。

小松理虔氏プロフィール：作家、地域活動家。地域活動に力を注ぎ、いわき市を中心に住民と共に持続可能なコミュニティづくりを推進。全国各地で講演・ワークショップを行い、地方の魅力と可能性を発信中。震災後の福島をテーマにした初の単行本著書『新復興論』が、第18回大佛次郎論壇賞を受賞。全国各地で講演・ワークショップを行い、地方の魅力と可能性を発信中。オルタナティブベース「UDOK.」・ヘキレキ舎主宰。



休憩 10：15～10：25（10分）

トークセッション 10：25～12：10（105分）

「今、浪江^{ここ}にいること」～いそがず あせらず あきらめず～

登壇者：橋本 由利子 コーヒータイム / 福島県浪江町（大会実行委員長）

小松 理虔氏 ヘキレキ舎 / 福島県いわき市

遠藤 真知子氏 浪江町 介護福祉課 福祉係長

司 会：兼濱 克弥 沖縄県精神保健福祉会 / 沖縄県（あみ理事）

小佐野 啓 あおば福祉会 / 東京都杉並区

大会では初めての試み「トークセッション」、登壇者中心の議論だけでなく、フロアからも日々の活動の想いや疑問を出しあい、会場全体でテーマを深めていきます。

『「今、浪江(ここ)にいること」～いそがず あせらず あきらめず～』この大会テーマを皆さんはどう受けとめましたか？ 震災・原発事故の当事者・非当事者、精神障害の当事者・非当事者という線引き、「自分はこっち側として支援しよう」という妙な納得と矛盾を感じたことはありませんか。毎日の仕事でも「これが自分の本当にやりたいことだったのだろうか」という手づまり感や、「こうあるべき」にとらわれ過ぎ、結果が見えない「やれていない感」はどうでしょうか。精神障害はもともと時間が長くかかる障害・病です。

このセッションでは「障害福祉サービス事業」の課題を迫るのではなく、精神障害のある人が普通に暮らせる地域(ここ)をどうつくっていくか、仲間をどう増やしていけるか、時間がかかるテーマですが、私たちのベースとなる仕事であり、目標でもあります。

この目標に近づくため、明日から自分の地域に持ち帰り、すぐに使える・行動できる、具体的なアイデア・工夫を生み出せたらと考えています。

閉会式 12：10～12：30（20分）

12：30～17：00（4時間30分）

浪江町内
フィールド
ワーク

大会終了後、被災地浪江町を巡るフィールドワークを行います。

なみえ大会ならではの、ここでしか体験できない特別企画です。

浪江町から許可を取り「帰還困難区域」に入り、13年前から手付かずのままの町や、震災遺構などを巡る4時間半。詳しくは6ページをご覧ください。

- 1 会場参加者は、以下の4つ(第1~第4分科会)より選んでください。
- 2 オンライン参加者は、第4分科会: 映画上映「生きて、生きて、生きる。」のみとなります。ご了承ください。
- 3 定員制の分科会(第1~第3分科会)は先着順で定員になり次第、締め切らせて頂きます。

第1分科会(会場参加者のみ対象)

就労選択支援についてのギモンを解決!!! ~希望する「はたらく」を支援することとは~

話題提供者: 鈴木大樹氏 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 就労選択支援専門官
司 会: 吉永圭佑 (社福) ビタ・フェリーチェ 工房フェリーチェ / 山口県岩国市(あみ理事)
定 員: 80名

この分科会は、障害者の「はたらく(働く)」について考える分科会です。

「はたらく」について考えるうえで、今もっともホットなキーワードは「就労選択支援」ではないでしょうか? 聞いたことはあるけどいまいちよくわからない! という方も少なくないのではということで、今回は厚生労働省の専門官をお招きして、概要の説明や皆さんが抱えているような疑問について答えて頂きます。

就労選択支援は早くも来年から施行されます。厚生労働省の専門官からお話を聞ける機会はとても貴重なので、ぜひこの機会と一緒に就労選択支援について学びましょう!

専門官のお話を聞いた後は、グループワークで障害者の「はたらく」について皆さんに話し合ってもらいたいと思っています。その中で、「はたらく」を支援することのヒントや新たな発見に繋がって頂ければ幸いです。

第2分科会(会場参加者のみ対象)

グループホームの本質を考える ~商業主義と支援の狭間で~

話題提供者: 村上 大作 (一社) てとて グループホームてとて / 福岡県糸島市(あみ理事)
話題提供者: 横谷 聡一氏 (社福) みんなの広場 / 宮城県仙台市
司 会: 峯苜 裕子氏 (NPO) あおば福祉会 あおばケアセンター / 東京都杉並区
定 員: 30名

最近ではビジネスを目的としたグループホームが急増し、様々な出来事が起き、テレビやネットのニュースでも取り上げられることが多くなってきました。そもそもグループホームとは何なのか? 起きてしまう虐待案件。重度化、高齢化への対応、地域の中での暮らしを支えるために必要なこと……。

考えることはいっぱい悩んでいませんか?

制度や状況が目まぐるしく変わりますが一度立ち止まって本質的な大事なことを一緒に振り返ってみましょう! この分科会ではグループホームに関する近況や実践の様子を聞いた後、みんなで『生活を支える』ことについて話し合い、これからも自分たちが大切にしていこうことについて考えたいと思います。

第3分科会(会場参加者のみ対象)

障害当事者の集いの場 ~ピア活動を通した言いたい放題~

話題提供者: 尾崎 哲哉氏 (NPO) コーヒータイム コーヒータイム / 福島県浪江町
話題提供者: 迎里 宗雅 IT 作業所 sunbridge / 沖縄県那覇市
司 会: 兼浜 克弥 沖縄県精神保健福祉会 / 沖縄県(あみ理事)
定 員: 25名

「ピアサポート実施加算」がスタートして3年が経過しました。障害者のエンパワーメントや、専門的な支援だけではなく、同じ経験をもつ者同士の支援(ピアサポート)が有効であるとの視点は、どこまで広がったのでしょうか? そもそも「仲間」を表す『ピア』という言葉の枠が「限定された仲間」を造っているのでは? 「ピア活動」って誰でもできるの? などなど、普段モヤモヤしている人は、ぜひ参加してください。

「そのモヤモヤ」を言葉にした時、本来の自分につながります。

この分科会では「自分らしさのヒント」がお土産となります。

第4分科会 (会場参加者・オンライン参加者 対象)

映画上映 「生きて、生きて、生きる。」

2024年 / 日本 / カラー / 113分

撮影・監督・プロデューサー：島田陽磨 (しまだ ようま)

上映終了後、
蟻塚氏、米倉氏
による舞台挨拶
もあります

司 会：渡辺 邦弘 (NPO)いずみ会 グループホームいずみ寮 / 福島県福島市

映画上映：15：52～17：45

舞台挨拶：17：45～18：00 蟻塚亮二氏・米倉一磨氏

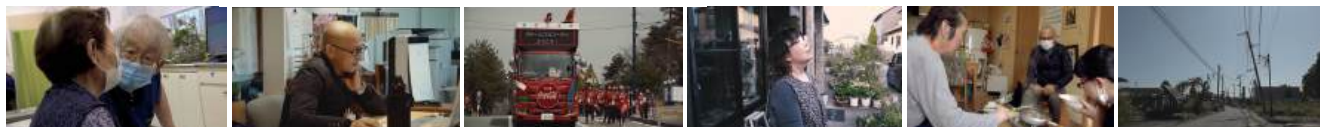
震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。

津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故による避難生活中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。

蟻塚医師は、かつて沖縄で、沖縄戦の遅発性PTSDを診ていた経験から、福島でも今後、長期にわたり、PTSDが発症すると考えていた。喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。

島田 陽磨 氏 プロフィール

1975年生まれ。早稲田大学教育学部生物学専修卒業。探検部在籍時に起きたアマゾン川部員殺害事件で取材を受けたことをきっかけに日本電波ニュース社に入社。テレビディレクターとして、2003年のイラク戦争など国内外の報道やNHKなどのドキュメンタリー作品を数多く手掛ける。「二つの戦争・翻弄された日本兵と家族たち」(2015年朝日放送)で坂田記念ジャーナリズム賞。「ベトナム戦争40年目の真実」(同)でニューヨークフェスティバルワールドベストテレビ&フィルム入賞。三度の訪朝取材をもとに北朝鮮と日本に引き裂かれた姉妹の58年ぶりの再会を描いた「ちょっと北朝鮮まで行ってくるけん。」で第76回毎日映画コンクールドキュメンタリー部門ノミネート、World Media Festival 2023 ドキュメンタリー部門(Human Concerns)金賞、ニューヨークフェスティバル2023 ドキュメンタリー部門(History & Society)銀賞、US International Award 2023 ドキュメンタリー部門(History & Society)銀賞など。本作の短編版『Live,Live.LIVE』で、Tokyo Docs 2023 ショートドキュメンタリー・ショーケース最優秀作品賞。



会場アクセス

- ・2024年8月1日時点での、大会初日の開会式(13:40)に合わせて東京駅と仙台空港のルート(ダイヤ)を例示しています。時間等はダイヤ改正で変更することもありますので、あくまでも参考例です。必ずご自身でご確認頂きますようお願い致します。
- ・浪江駅から大会会場までは徒歩5分程度です。
- ・浪江駅及び会場周辺の飲食店は多数ありませんので、**昼食は済ませて浪江駅にお越し頂くことをお勧め**します。

電車	東京駅から	09:53 発 東京	→→→ (ひたち7号)	12:14 発 いわき	→→→ (常磐線)	13:18 発 浪江	
		08:48 発 東京	→→→ (新幹線)	10:36 発 仙台	→→→ (常磐線)	11:59 発 原ノ町	→→→ (常磐線) 12:17 着 浪江
	仙台空港から	10:28 発 仙台空港	→→→ (仙台空港アクセス線)	10:49 発 名取	→→→ (常磐線)	11:59 発 原ノ町	→→→ (常磐線) 12:17 着 浪江
車	東京駅から	宝町 IC	→→→ (首都高速)	小管 JCT	→→→ (常磐道)	常磐双葉 IC	→→→ (一般道) 浪江 (約3時間20分)
	仙台空港から	仙台空港 IC	→→→ (仙台東部道路)	浪江 IC	→→→ (一般道)	浪江	(約1時間20分)

Parking: 大会会場に無料駐車場はあります

注) 「浪江町内フィールドワーク」参加希望の方へ フィールドワークの終了は17:00、浪江駅解散となり、17:46 浪江発→21:44 東京着・19:21 浪江発→22:44 東京着の電車があります。

1 以下のアドレス、もしくはQRコードより、Peatixにて申し込みをお願いします。

<https://peatix.com/sales/event/4078014/tickets>



2 申込の際は、希望する「分科会」に加え、「活動交流会」「浪江町内フィールドワーク」「いこいの村浪江宿泊」の申込の有無についても入力をお願いします。

3 定員が定められているものは、定員になり次第、申し込みができなくなりますので、お早めにお申し込みください。

4 Peatixでの申し込み後、「大会参加費」の支払いを完了させてください。

5 「活動交流会」「浪江町内フィールドワーク」「いこいの村浪江宿泊」の支払いは、大会当日、現地での受付時にて徴収させていただきます。（Peatixでの申込の際の請求額は「大会参加費」のみとなります）

6 「活動交流会」「浪江町内フィールドワーク」「いこいの村浪江宿泊」の支払いは、現金のみとなります。受付時での支払いのご用意をお願い致します。

申込締切：2024年10月9日（水）

「浪江町内フィールドワーク」について

2024 namie

『浪江町内フィールドワーク』

日時：2024年10月19日（土）12：30～17：00

申込み：Peatixにて大会参加と一緒に申し込んでください

参加費：4,000円（弁当付き・入館料含む）

支払い：当日、現地にてお支払いください（現金のみ）

定員：50名（定員に達し次第、締め切らせて頂きます。早めにお申込ください）

福島県浪江町をマイクロバスで巡る、被災地開催ならではの特別企画です。

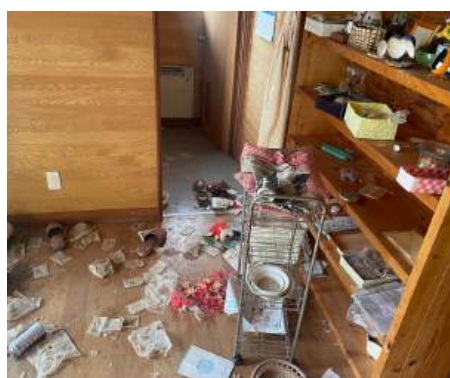
放射能で被災し、未だ「帰還困難区域」となっているエリアまで足を運び、13年前から手付かずのままの事業所「コーヒータイム」の見学をはじめ、津波で被害を受け現在は震災遺構となっている「請戸小学校」、東日本大震災での原子力災害についての記録を克明に示した「伝承館」等を巡るフィールドワークです。当日はマイクロバスで移動し、現地ガイドさんの説明と共に、被災した町を自らの目で見て、身体で感じるまたとない機会です。

※「帰還困難区域」に入ること放射能汚染を気にされる方もいらっしゃるかもしれませんが、短時間ですし、防護服も着用しますので心配には及びません。

※17時に浪江駅で終了、解散となります。

※終了後、東京へは以下の電車があります。（2024年8月1日現在）

17：46 浪江発→21：44 東京着・19：21 浪江発→22：44





「いこいの村なみえ」の宿泊について

この度、大会会場近隣の宿泊施設「いこいの村なみえ」さんのご好意により、大会1日目（10月18日）は、**大会参加者のみで全館貸切**とさせて頂き、宿泊費もなみえ大会用に割引して頂くこととなりました。施設は「本館」と「コテージ」の2タイプがあり、大浴場、サウナも完備された宿泊施設です。

「コテージ」タイプは東日本大地震の際に建てられた仮設住宅を移設したもので、体験的な宿泊もできます。また、大会1日目（10月18日）の夜に実施される「活動交流会」も「いこいの村なみえ」さんで行いますので、交流会参加者の方にはとても便利でリーズナブルな宿泊先となります。

● 宿泊費：1泊7,000円 / 人（朝食付き）

● 申し込みと支払いについて

- ・ 宿泊は「部屋ごと」となりますので、**同室で宿泊される複数名（3～4名）**でご予約ください。先着順で定員になり次第、締め切らせて頂きますので、ご希望される方はお早めにお申込みください。
→ 本館：8室・コテージ：20室
- ・ 申込は、① **Peatix** での大会参加時の申込み と合わせて、② **本申込書をコピーしファックスにて送信** してください。
- ・ 宿泊費用は大会当日に大会会場にてお支払いください（現金のみとなります）

申込ファックス：027-386-8662

申込書 ※申込書は代表者の方のみ1枚で結構です（同室に宿泊される方は必要ありません）

希望される部屋タイプに●をお願いします			<input type="checkbox"/> 本館	<input type="checkbox"/> コテージ	<input type="checkbox"/> どちらでも良い
宿泊人数：	名	事業所等、所属がない場合は不要			
同室で宿泊される方	宿泊者 1（代表者）	氏名	所属		
		TEL（連絡がつながる番号をお願いします）			
	宿泊者 2	氏名	所属		
	宿泊者 3	氏名	所属		
	宿泊者 4	氏名	所属		

- ・ 駐車場を完備していますので、お車での宿泊も大丈夫です（駐車場代無料）
- ・ 電車で大会に参加される方は、大会会場との往復を行います（送迎代無料）
→ 大会1日目は大会終了後の送迎、大会2日目朝は大会会場への送迎を行います
- ・ 「活動交流会」に参加されない方の宿泊も可能です